

## 本年度の重点目標

・居場所づくりと、安心・安全な学校づくりに努める  
 ・効果的なICT機器活用と主体的・対話的で深い学びの実現に努める  
 ・同僚性の向上、関係者との連携協働、組織的対応の充実に努める

領域	重点評価項目	中間評価(10月)		総合評価(3月)	
		自己評価		自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	関係機関と連携し、教育環境の整備に取り組んでいる。				
	教育方針や教育目標、教育活動に関する説明を適切に行っている。				
2 教育課程・ 学習指導	個々の能力・特性に応じた適切な個別の指導計画を作成し、基礎学力の定着を図っている。				
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善を行っている。				
	自立活動や学校行事を通じて、これからの社会に求められる資質・能力の育成を図っている。				
3 生徒指導	LHRや委員会活動を通して、集団の中で自主的な力の育成を図っている。				
	基本的生活習慣の育成を図り、学校生活のリズムの確立に取り組んでいる。				
	児童生徒が自ら考え、判断し、行動できる力の育成に努めている。				
4 進路指導	いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。				
	職業観・人生観を育て自ら進路について考え、切りひらいていく力をつけていけるようキャリア教育に取り組んでいる。				
5 保健・安全指導	進路保障を行うよう関係機関と連携・協力し、進路開拓を行っている。				
	児童生徒の健康・安全を第一とし、緊急事態や状態の変化に迅速に対応している。				
6 人権教育	医療機関との連携を密にし、児童生徒の健康管理、保健指導に取り組んでいる。				
	人権尊重の精神を養い、生活に生かせるよう指導している。				
7 環境教育	個々の実態や課題、発達段階を踏まえた人権学習に取り組んでいる。				
	清掃活動や節電・節水など、身近な環境に配慮した行動を意識して行えるよう、日常的に指導している。				
8 交流及び共同教育	環境問題や自然環境に関心をもてるよう、標語づくりや体験的な学習活動などに取り組んでいる。				
	児童生徒の実態に応じて、近隣小中学校との交流及び共同学習を計画的に実施している。				
9 教職員の現職教育	日常的にICT機器を活用し、指導力研修およびICT活用指導力の向上や改善に取り組んでいる。				
	校内外研修をととして特別支援教育に関する知識を深めている。				
10 センターの機能 の発揮	特別支援教育の啓発活動を行っている。				
	地域支援を更に充実するため、関係機関と連携を図り組織的に対応している。				
11 その他 学校の取組み	さざなみ学園との連携を図るとともに、保護者・地域との連携を図っている。				

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はA、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はB、あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はC、達成できていない場合（達成度40%未満）はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。